

令和3年4月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.23

～令和2年度の保存事業報告①～



うみ：最近うれしそうね。

建吉：おっ、わかるかいのお。伝建制度が始まってから、ちいとずつ^{ふぜい}風情が戻ってきたけえのお。わしも仕事が楽しゅうての。

うみ：そう言われると、この前のアートインの仕事は楽しそうだったわね。

建吉：ありゃあええ建物じゃった。わしも大工仕事を手伝わしてもろうたが、あの^{たてぐ}建具は宮島の中でも指折にええもんじゃったで。今回表の^{しかど}鹿戸をやり替えたけえ、一段と良うなったな。



施工前



施工後

みらい：おじいちゃん、屋根を直した時、お宝が出てきたって言ってたよね。

建吉：おお、そうじゃった。古い瓦じゃったけえ、どうかと思いよったが、薄い板を重ねた下地じゃったんじゃ。「^{そぎいた}粉板」と言っとるが、今の者は知らんじやろうの。

みらい：そぎいたって、お宝なの？



屋根解体時の^{そぎいた}粉板下地

うみ：おじいちゃんにはお宝だけど、みらいちゃんにはたいした物じゃないわね。駅弁を買った時に、木でできたお弁当箱を「そぎ」でできてるって言うわね。それはわかるかな。

みらい：木のお弁当箱は知ってる。そんなのが瓦の下にあったの？お弁当箱いっぱいできるね。

建吉：う～ん、みらいには見せとけばえかったのお。

うみ：アートインさんは、屋根の雨漏りや瓦が落ちそうだったからひと安心ね。宝寿院の「^{やまべ}山辺の^{こみち}小径」から見た側は、かなり瓦が傷んで大変そうだったからね。きれいになったわ。



施工前



施工後

みらい：ねえ、おじいちゃん。門の所にあった電気のメーターが無くなったけど、電気はどうなったの？昔の家みたいに電気が無いの？

建吉：みらいはよう見とるのお。設計士さんが「せっかく伝建の補助でするんなら、昔無かった物は隠しましょう。」と言うて中に入れたんじゃ。電気はちゃんと使えとるよ。

うみ：一番良く見えるところに、いい心配りがあるわね。門には昔の瓦も使ってあるしね。

みらい：わたし、中も見たかったな。

建吉：中もええんじゃ。^{しっくい}漆喰壁に^{かべ}粋な^{いき}建具がいっぱいあつての。

みらい：おじいちゃん、ずる～い。



【次回は保存事業の報告②です】

今昔写真を見比べて



上の写真は、昭和 48 年頃の西連公園の様子です。周囲にフェンスは無く、おおらかな時代が忍ばれます。遊具の種類は雲梯と組み合わせた滑り台と傘型のオーシャン・鉄棒があります。

下の写真は、現在の様子です。ネットフェンスで囲われ、桜の木が大きく育っています。遊具は老朽化によりアスレチック的な遊具が設置されています。ぞうさんとかめさんのコンクリートの遊具は、50年近く子供達を見守っています。

右の斜面も有効利用され、昔は滑り台がありましたが、現在は緑化され、石が積まれています。

宮島では鹿が草を食べるため、雑草はあまり見られません。糞が気になることはありますが、きれいに使われています。



建物内部改修補助金交付制度【令和3年度の希望者募集】

保存の同意をいただいている伝統的建築物所有者を対象に、内部改修に補助金が交付できる制度があります。観光庁の補助制度で、宿泊・体験施設などへの転用のための修理工事など、いくつかの条件があります。今年度中に工事が完成見込みの方で、まだ工事に着手していない方は応募可能です。都市計画課歴史まちなみ推進係まで連絡して下さい。

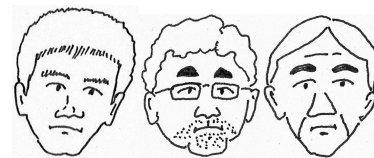
応募締切：5月28日（金）

連絡先：都市計画課 電話 30-9183

FAX 31-0999

職員紹介【伝建担当者】異動がありました

令和3年度はこのメンバーで頑張ります！



清水

二宮

向井



内山

退職



白水

異動



田宮



池田

よろしくお願いします

皆さんお世話になりました

まちなみ通信 No.23（令和3年4月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

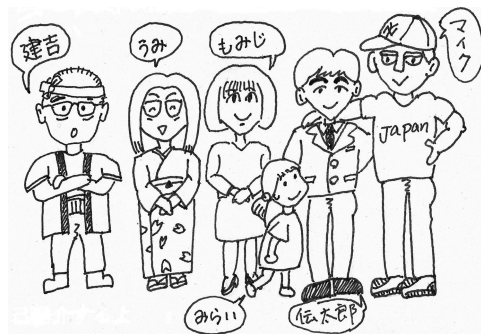
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和3年5月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.24

～令和2年度の保存事業報告②～



みらい: おじいちゃん、おはよう。神社の近くのお店が新しくなったね。

建吉: おう、みらい、おはよう。福田屋さんじゃな。



施工前



施工後

みらい: 赤いのはベンガラ塗りなんでしょう。

建吉: 正解じゃ。みらいはこの前の塗装調査の先生によろしく聞いたからなあ。

みらい: へへえ。すごいでしょ。昔はあんなに赤かったんだね。

建吉: 柱や廊下の内側の材料にもだいぶベンガラの痕跡があつてのお。見事な復元じゃ。

みらい: どうして、宮島はベンガラが多いの？



ベンガラの痕跡

建吉: それはな、岡山の吹屋(高梁市)でベンガラの原料の硫化鉄がよう採れたんじゃ。それに瀬戸内海の海上輸送で、安くて安全な防腐効果のある材料じゃゆうて、重宝されたんじゃろう。



ベンガラの里
(岡山県高梁市吹屋)

みらい: へへ、近くに採れるところがあったんだ。

建吉: それにな、明治後期には、広島でもベンガラの製造が始まり、ますます手に入りやすうになったんじゃ。

みらい: すごい。やっぱりおじいちゃんは何でも知ってるねえ。

建吉: 実はわしも、この前の塗装調査でこっそり教えてもらたんじゃがな。

みらい: 他にも、あのお店はいいところがあったの。

建吉: よう見んとわからんが、2階の廊下は少し減築しとるんじゃ。昔は廊下が狭かってな、痕跡が出てきてそれを上手に復元したんじゃ。



2階の廊下周辺の痕跡



みらい: げんちくってなに？

建吉: ちょっと難しい言葉じゃったな。増築は面積を増やすこと。減築は減すことじゃ。廊下の幅を90cmくらいから、60cmくらいに、狭くしたんじゃ。壁や床板を剥がしたらその跡が出てきたんで、それを昔のように仕上げたというわけじゃ。

みらい: へへ、昔のままなのかあ。

建吉: 生活に合わせて、ガラス窓に替えたりして、多少は違つとるが、まあ、元のままじゃな。それとな、中の壁は竹小舞で作られたんじゃ。今回の工事は中の壁を一部壊してふすまに替えたりしとる。その時に見せてもらうたが、きれいに残つたわい。ええもんじゃのお。

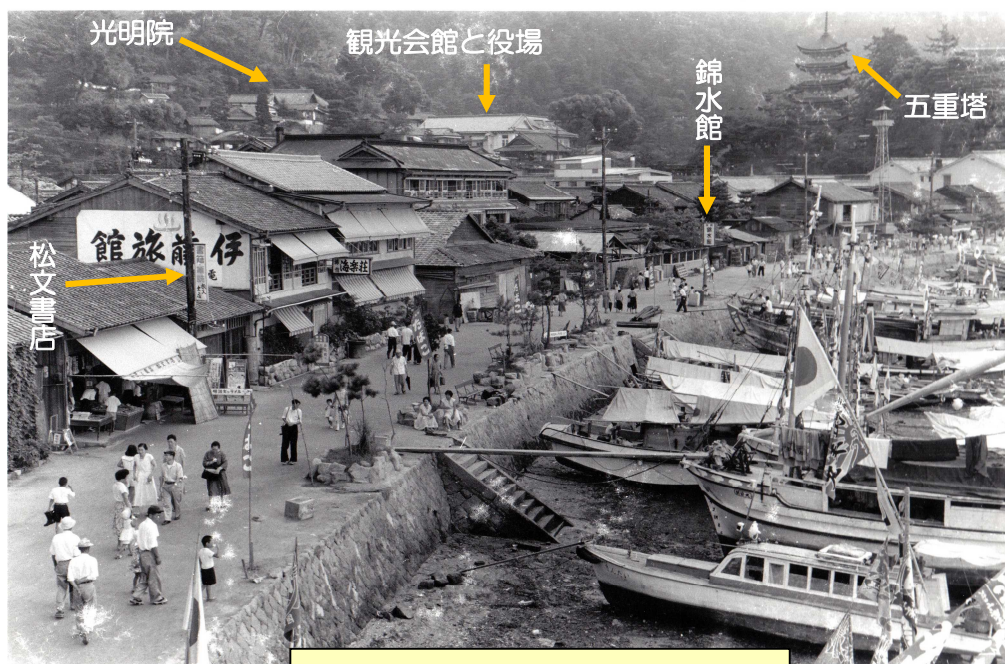


竹小舞の壁

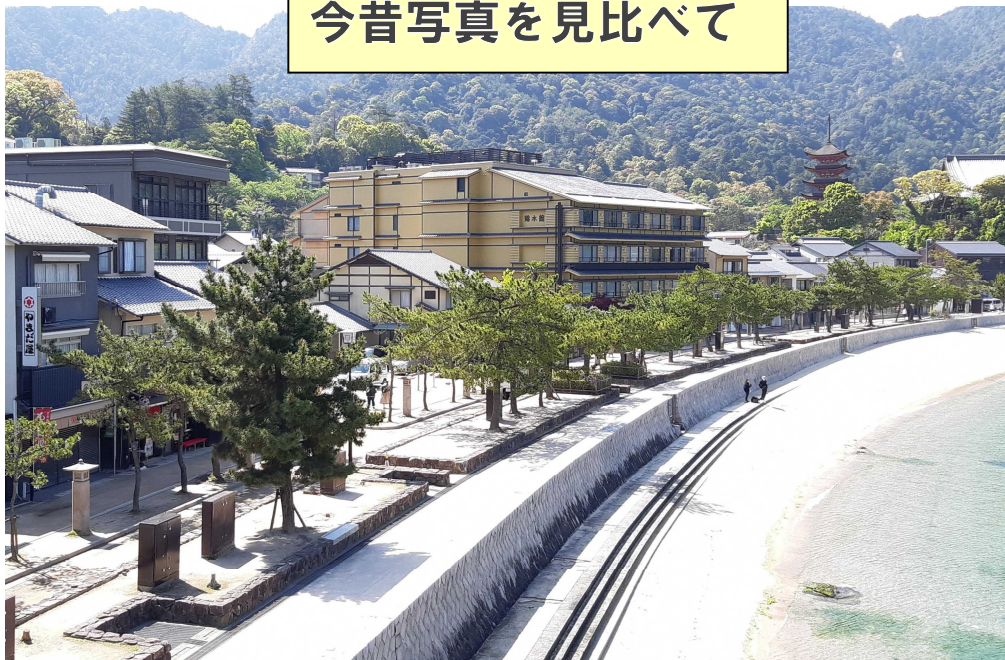
みらい: えへ、またおじいちゃんだけ見たのお。ずるい。今度はみらいも連れてってよ。

建吉: また、叱られてしもうたわい。

【次回は考え中です】



今昔写真を見比べて



上の写真は、昭和40年頃の様子です。たくさんの船が寄港しているので、管絃祭の前後でしょうか。右の遠方に五重塔、中央辺りに観光会館と宮島町役場の屋根が見えており、更にその左に光明院の屋根が山際に確認できます。海岸沿いには、中央辺りに錦水館、手前には大きな伊藤旅館の看板が見えます。現在のよさこいと思われます。その看板の手前の電柱看板には「書籍・雑誌松文書店」の文字が確認できます。

下の写真は、現在の有之浦の様子です。護岸が整備され、松も成長しました。海岸沿いは、大きな建物が建ったので、その後ろは見えなくなっていました。海も陸も、時代と共に風景がかなり変化しました。五重塔が見えるので、おそらく同じ角度で撮影できたと思います。

建物内部改修補助金交付制度【令和3年度の希望者募集】

保存の同意をいただいている伝統的建築物所有者を対象に、内部改修に補助金が交付できる観光庁の制度があります。令和4年2月中に工事の完成が見込まれ、まだ工事に着手していない方は応募可能です。「宿泊・体験施設などへの転用」など、いくつかの条件がありますので、都市計画課歴史まちなみ推進係まで連絡して下さい。

応募締切：5月28日（金）

連絡先：都市計画課 電話 30-9183

FAX 31-0999

「みやじまの町家に親しむ会」が動き出しました

4月9日（金）、etto 宮島交流館で「みやじまの町家に親しむ会」が初めての活動を行いました。この日は、市役所職員を講師に「宮島の町家の特徴」を「まちなみ通信」の記事をもとに学習しました。

今回は、実際に町家を見て歩きます。



活動日：毎月第2金曜日 13時30分から
連絡先：090-7541-7461（内山）

まちなみ通信 No.24（令和3年5月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和3年6月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.25

～国が選んだ重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)～



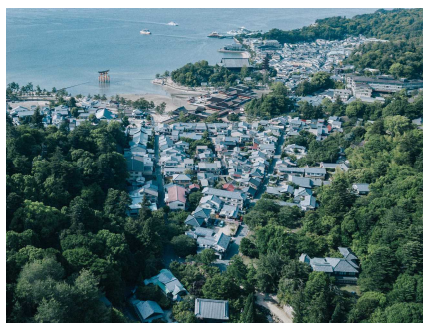
建吉：うう
うっ。つい
に重伝建じ
ゃあ。長い
道のりじゃ
ったわい。

うみ：お父さん、感無量のよ
うですね。

建吉：そりゃあ、そうじゃ。
始めに町並みに関する調
査をしたんが平成15年

じゃからな。わしが何かしたわけでもないがの。

うみ：でも、まだ国の文化審議会の答申が出ただけ
で、正式な決定はもう少し先なんでしょ。



建吉：ほうじ
ゃが、国が「重
要」じゃ、言
うて認めたん
じゃから、後
は手続きで、
時間がかかる

だけじゃ。わしああ、うれしゅうてうれしゅうて。

伝太郎：こんにちは、お義父さん。ついに重伝建で
すね。新聞見ましたよ。良かったですね。

みらい：あれ～、おじいちゃ
ん、泣いてるの？うれし
いんじゃないの？

うみ：みらいはおじいちゃ
ん大好きねえ。うれしい
時にも泣くことがあるのよ。大丈夫よ。

みらい：そうなの？じゃあよかった。

マイク：建吉さあ～ん。おめでとうございま～す。

建吉：おう、マイクも来てくれたかあ。ありがとう。

国からの支援があるけん、修理できる軒数が増

宮島の
鳥取県若桜地区も
重伝建へ
文化審答申

中国新聞

5月22日(木)

えるじゃろう。わしも張り切っとるわい。

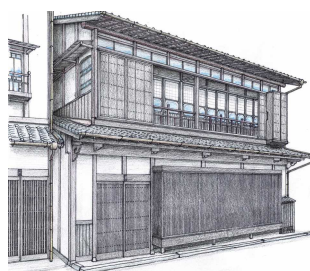
もみじ：正式決定すると、私たちの生活に何か影
響があるんだったかしら？

伝太郎：現状変更の許可申請や修理の補助金はこ
れまで通りだけど、保存することに賛同してる
建物は、固定資産税が非課税になるらしいよ。

うみ：そうね、お金のことを言えばそう言うことだ
けど、神社やお寺や弥山の他に、神社を支えてき
た門前町の、私たちの町並みが文化財として認

められたって言う方が
大きいと思うわね。

もみじ：そうね、昔か
ら変わってない敷地割
りなんかも、すごいこ
とだと思うわ。



マイク：僕の大好きな宮島の町並みを、後世に伝え
ていくんですね。僕も協力します。

うみ：新たな付加価値が付いたってことかしら。商
売されている方達は、期待してると思うわ。

建吉：いっぺんにはできんが、宮島ならではの町並
みが復元されるのは、住んどるわしらの誇り^{ほこ}でも
あるんじゃ。町家の格子は繊細な作り^{せんさい}でのお。

^{ひさし}庇の軒裏は特徴的で、腕木があ
って、持ち送りがこうで……。

もみじ：あ～、お父さんの町家大好
きが始まったわ。

みらい：わたしも、町家大～すき。

もみじ：もう一人いたんだった。

伝太郎：作るだけじゃなくって、私
達も町並みを守ったり活用する
ことを考えていかないとね。

建吉：そうじゃ、そうじゃ。まちづくりはこれから
が本番じゃのお。

住民「まちづくり本番」
町家や建築学ふ活動も

【次回は管絃祭です】



今昔写真を見比べて

© tsuneichi MIYAMOTO

撮影：宮本常一 / 提供：周防大島文化交流センター

本写真の著作権は保護されています。

本データの使用は、廿日市市歴史的建造物群保存対策調査に限り許可されており、それ以外の目的の外部使用には別途申請が必要です。



左の写真は、昭和40年頃の中之町から桜町への路地の様子です。路地の上空に壁をつなぐ支え棒の様なものが3カ所設置してあります。底や外壁は、既に大壁になったり、軒裏をモルタル塗りにしたりで、少しずつ現在に近い風景に変わりつつあるようです。

右の写真は、現在の同じ位置の様子です。色彩ははっきりとわかりませんが、変化は少ないようです。近所の方の話を聞くと、路地の上に板を渡して、お互いの家の2階同士で行き来していたことがあったとか。壁を支え合っ^{もや}て(舐う)いることといい、島内は近所づきあいを上手にしていたことが伺えます。

「みやじまの町家に親しむ会」まち歩きをする

4月に発足した「みやじま町家に親しむ会」が、第2回目の活動を行いました。1回目に「宮島町家の特徴」をまちなみ通信の建吉さんの紹介により説明してもらった町家を、実際に探しながら町歩きをしました。軒裏が特徴的だとの説明どおり、いつもは注目しない軒裏を観察しました。こんなお宝があるのかと改めて気づきました。

次回は、7月第2金曜日の予定です。

連絡先：090-7541-7461（内山）



宮島工業高校で伝建の魅力を紹介しました

宮島工業高校建築科から、宮島の歴史や伝統的建造物群保存地区内の町家の特徴を授業に取り入れたいとの要請を受け、5月17日に、出前トークして来ました。

今年度から3年生の1グループ13人が宮島町家について取り組むそうです。生徒達の目で新しい発見があるといいですね。



まちなみ通信 No.25（令和3年6月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和3年7月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.26

かんげんさい
～管絃祭と関連行事～



うみ：今年も暑いわねえ。

建吉：昔は、こがぁに暑うはなかったがのお。

うみ：コロナウィルスもなかなかおさまりませんし、今年の管絃祭はどうでしょうねえ。

建吉：ほうよのお。去年は神事^{しんじ}だけじゃったけえ寂しいもんじゃったよのお。

マイク：こんにちは、建吉さん。日本の夏は暑くて大変



です。湿度高すぎです。

建吉：こうゆう時は、ぱーっと祭りで大騒ぎして暑さを吹き飛ばしとったんじゃがのお。

マイク：そう言われると、管絃祭が近づいてきましたけど、コロナでどうですかね。

うみ：そうなのよね。さっきも「去年は神事だけだったわ」って、話したところなのよ。

マイク：昔はどんなだったんですか。



昭和35年の管絃祭

建吉：そうよのお。船は、大漁旗^{たいりょうばた}を掲げてこら辺りの浜はぎっしり詰まっとったのお。

うみ：そうねえ。対岸の地御前^{じごぜん}に向かう時は、御座船^{ござぶね}を取り囲んで、御座船が見えない時もあったわね。ものすごい船の数だったわよ。

マイク：そんなにすごかったんですか。

うみ：今のように管絃祭当日だけじゃなくって、泊まり込みで前日以前からきている船もたくさんあったわね。そりゃあ賑わったものよ。

建吉：市立祭^{いちたちさい}が2週間前にあつて、御洲^{おす}掘^{ぼり}が1週間前にあつて、島民も対岸

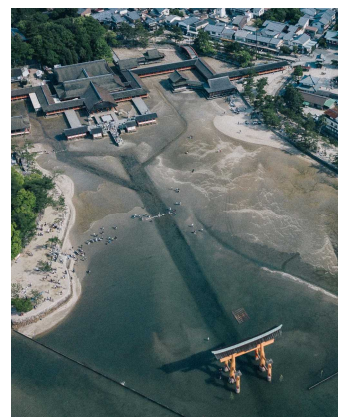


の人たちもこぞって「管絃祭じゃあ」ゆうて盛り上げたもんじゃ。暑さが吹き飛びよったわい。

マイク：オスボリってなんですか。

建吉：何年か前にマイクもやったんじゃが、名前をしらんかったか。大鳥居をくぐってから神社までの砂浜を御座船が通りやすうするための海の道づくりじゃ。

マイク：はいはい、やりました。作業



中に話をした人は島外の人ばかりでしたね。

うみ：そうね、御洲掘は島外の人たちがやってて、他の準備を島民がやってるわね。年々参加する人が減ってきて、いろいろと大変なのよ。

建吉：そうなんじゃ。管絃を奏でるもんも、御座船を組み立てるもんも限られとる。伝えていかにゃあいけん。いろんな行事がそうじゃのお。

マイク：アメリカ人の私でもいいですか。

建吉：大歓迎じゃ。宮島大好きをもっと増やさんといけんのぉ。

【次回は地域行事の予定です】

今昔写真を見比べて



左の写真は、昭和30年代の下西連町の様子です。左右の家の1階庇裏は^{でげたうでぎ}出桁腕木で施工され、伝統的な宮島町家の特徴があります。正面の石段や石積みは一見変化がないように思いますが、石積みの角度が違っていています。その石積みの前や左の町家の軒下に懐かしい自転車の姿が映っています。

右の写真は、現在の同じ位置の様子です。両側の町家の1階^{ひさし}庇裏は、ほぼ変わりなく残っているように思われます。正面の石積みが、少し緩やかな安全な積み方になっています。電柱が同じ位置にあるので、60年前のものがあるのでしょうか？右の町家の出格子のそばに石柱が立っています。^{せいしんつるい}誓真釣井の^{ひょうちゅう}標柱です。歴史を継承していく必要な変化と、町並みを保存する変わらない物が何かを語っているような写真です。

ヘリテージマネージャー（歴史的建造物保存活用資格者）とは

「ヘリテージ」というあまり聞き慣れないこの言葉は、「^{せしゅうざいさん}世襲財産」「^{せんぞでんらい}先祖伝来の物」「文化遺産」などの意味があります。

ヘリテージマネージャーは、宮島の中の伝建地区に限らず、地域に眠る歴史的な価値を持った建造物をまちづくりに活かす能力を持った人材です。これから島内で活躍していただくことになりますが、資格は建築士会の講習を受けることで取得できます。興味のある方は誰でも講習を受けられますので、市都市計画課か、広島県建築士会へ問合せ下さい。市の職員にも8名の資格者がおります。

広島県建築士会 ☎：082-244-6830

まちなみ通信 No.26（令和3年7月1日）発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和3年8月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.27

～宮島踊りの夕べ～



マイク：こんにちは、うみさん。今年は宮島踊りの夕べは中止だそうですね。

うみ：こんにちはマイク。そうなのよ、残念だけどコロナウィルスもなかなかおさまらないからね。

マイク：去年もなかったですよ。

うみ：発表の場がないから踊り手も練習に力が入りにくいわね。



マイク：そも

そも、宮島踊りってどういう踊りなんですか。日本の盆踊りとは違うらしいじゃないですか。教えて下さい。

うみ：マイクは戦国時代がわかるかしら。

マイク：毛利元就や豊臣秀吉の時代ですね。

うみ：そうそう、その頃の話ね。伊予の国（現在の愛媛県）の武士の船団が宮島に乱入して来て、神前に矢を射ったり民家に放火するなどの狼藉をしたところ、風浪俄に起こり悉く船は沈没し、多くの溺死者が出たの。その後付近を航行する船に亡霊が災いをするようになったことから、供養のため、念仏踊りを行うようになったの。

マイク：起源が全く違うんですね。

うみ：起源も違うけど、踊りにも特徴があってね、厳島神社の舞楽の基礎が入っていると言われていたの。テンポがすごくスローで、反面すこぶる優雅なところがあるのよ。それにね、動きが止まることがないの。絶えず動いてい



るのよ。

みらい：こんにちは。何の話なの？

マイク：宮島踊りのことを教えてもらってました。

みらい：私も宮島踊りできるよ。毎年教えてもらって運動会で踊るんだよ。こうやってね……。

マイク：すごい、すごい。島の子供達はみんなできるんですね。伝承されてるんですね。

うみ：そうね、宮島学園には毎年指導に行ってるわ。今みらいが踊った、顔の前で手をすりあわせ



る動作はね、供養のために拝んでいるのではないかと言われているの。言い伝えだからはっきりしたことはわからないけどね。

マイク：宮島踊りは深いですね。

うみ：実はね、宮島踊りは踊りだけでは成り立たないのよ。宮島学園には、5年生に唄、6年生には三味線も習ってもらっているわ。太鼓もあるから、伝承



は簡単ではないのよ。

みらい：唄はまだ覚えてないけど、すご〜く、ゆっくり唄うんだよ。宮島八景って言うんだ。

マイク：僕も唄覚えてみたいです。

うみ：うれしいこと言ってくれるわね。子供達も成長したら島から離れる人が多いから、踊り手も演奏者もかなり少なくなっているの。

マイク：ますます中止が残念に思えてきました。

【次回は「はつかいち広報」に、重伝建の特集として、まちなみ通信も掲載予定です】

今昔写真を見比べて



今回は島から飛び出して宮島口の今昔写真です。

上の写真は、昭和40年頃の宮島口の様子です。正面奥に当時の国鉄宮島口駅があり、中央のバスの後側辺りに国道2号があると思われます。ちょうどその辺りにアーチ型の看板に「宮島ボートレース」の文字が確認できます。(字が小さくてすみません)写真の左端には宮島焼工場みやじまやきの看板も確認できます。歩車道の区分はなく、多くの人が行き交っています。

下の写真は、現在の様子です。歩車道が整備され、ロータリーが設置されています。周辺の建物はほとんどが木造瓦屋根から鉄筋コンクリート造等のビルに建て変わっています。電柱はなくなりましたが、街灯や道路案内が立ち並ぶこととなりました。国鉄はJRに変わっています。



「伝建宮島工務店の会」が設立されました

7月10日土曜日、etto 宮島交流館で、「伝建宮島工務店の会」設立総会が行われ、出席者全員で設立を確認しました。引き続き、設立記念研修会があり、宮島の町並みを長く研究されている広島工業大学名誉教授の森保洋之氏ひろしから「宮島の町並み保存の意義」と題して基調講演が行われました。

この会は、工務店だけでなく、建具や塗装などの職人を含め、宮島町家の特徴や技術の伝承などを目的として、町並み保存に取り組むそうです。



宮島工業高校が伝建地区内の建物調査をしています

宮島工業高校建築科が、市の出前トークをきっかけに、伝統的建造物群保存地区内の町家の調査を



始めました。今年度から3年生の1グループが宮島町家について取り組んでいます。

生徒達は、まず現状の測量から始めて、次回以降町家の特徴や過去の修理の痕跡こんせきを調べる予定です。

まちなみ通信 No.27 (令和3年8月1日) 発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999